

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	佐賀県立金立特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標が達成できていない重点取組もいくつかあり、アンケート結果から課題がある項目を含め、検証を重ねて次年度以降の改善に向けて引き継ぎ取り組むことが重要である。 肢体不自由単置校として、教職員一人一人の専門性をどのように高めていくかは、学校としての課題である。 取組内容から成果指標、具体的取組、そして評価という流れが、あいまいで抽象的なものではなく、一貫性のあるより客観的な結果として表れる適切な内容となるように、計画作成の段階で十分に検討をしていく必要がある。
2 学校教育目標	<input type="radio"/> 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態、発達段階や特性)に応じた教育を実践する。 <input type="radio"/> 児童生徒が、「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>「夢に向かって ---- 明るく、正しく、たくましく」</p> <p>(1)児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。 (2)自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切に教育を充実させる。 (3)健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価		
								評価	意見や提言	
(1)共通評価項目										
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	OPDCAサイクルで指導や支援の方法をより良いものにし、個別の指導計画で児童生徒の前期経過及び学年末評価を向上させることができた」と回答する職員が75%以上	・ケース会において、複数児童生徒に関わる複数の職員で指導支援の方法を相談し、共通理解を図る。 ・個人面談等において、学習内容や児童生徒の向上点を保護者へ説明する。							教務
	○教育の質の向上に向けた支援機器やICT活用教育の充実	○ICT機器を活用し、効果的な授業の促進ができた」と回答する職員、保護者が75%以上	・タブレット端末、電子黒板等を対面授業やリモート授業等・集会活動で活用する。 ・児童生徒の実態に合わせて、音声代替装置等のICT機器活用を推進する。							学習・情報
	○児童生徒の夢や希望を尊重しながら、個に応じた進路指導の充実	○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされている」と回答する保護者が75%以上	・教職員を対象とした進路研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。 ・個に応じた資料を必要に応じて作成し、職員、保護者へ提供する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができている」と回答する職員が75%以上	・道徳教育や特別活動、生活単元学習等で、思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・年間1回以上の交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる経験を多様な体験活動で充実させる。 ・児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、模造紙「えがおの木」に貼り付ける活動を行う。							生徒指導
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について、取り組むことができている」と回答する職員が75%以上	・学校生活調査を毎月行う。 ・いじめアンケートを年間2回実施し、教職員間で情報を共有する。 ・児童生徒会役員会で、毎回、児童生徒一人一人が頑張っていることを取り上げ、互いのことを尊重し、認め合う雰囲気を作っていく。 ・いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修・会議を年間1回以上行う。							生徒指導
	◎児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○学校評価アンケートにおいて、それぞれの学部目標に対応しながら、進路に向けた取り組みができている」と回答する職員(と保護者)が80%以上	・小学部では、交流及び共同学習に積極的に取り組み、社会性を育てる。 ・中学部では、交流及び共同学習に取り組むとともに、将来の生活や生き方について、意識づけをさせる。 ・高等部では、交流及び共同学習、校外学習、就業・施設体験等を充実させ、生活経験の充実と社会性の育成に努める。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○指先を意識した手洗いの指導ができている」と回答する保護者、職員が75%以上	・現在ある手洗い手順書を改良し、指先を意識した手洗いをしよう職員へ呼びかけ児童生徒への指導を行う。 ・感染症予防に関する研修及び保健指導(動画視聴)を行い意識の向上を図る。 ・毎月のほけんだよりで校内の手洗いの様子を掲載し発行する。 ・毎月第3木曜日の職員朝礼を「感染症予防の日」とし、教職員の理解啓発を図る。							保健
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○校内研修や公開研修等を実施し、専門性の向上につながった」と回答する職員が80%以上	・校外支援として巡回相談の実施、電話相談の対応を行う。校内支援として教育相談及び他校務分掌との連携協力を行う。 ・公開研修会の計画や案内をし、専門性向上への理解啓発を促す。							相談支援
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守 ○職員の時間外勤務時間の一月の平均時間が20時間以内(昨年度を維持) ○一月の平均時間が20時間以上の人数は一月平均30名以内(昨年度約44名) ○年休取得率が平均70%以上	・月1回の定時退勤日を完全実施する。 ・月3回の定時退勤推進日についても、定時退勤について強く推奨していく。 ・出勤システムについて、打刻等を定期的にすることで各人の勤務状況を把握し、意識啓発を図る。 ・年休取得ができやすい行事計画の見直しを行い、啓発を図る。 ・業務分担を見直し、業務の効率化と平準化を図る。							管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○自立活動	○「自立活動」の指導の充実	○自立活動に関するアンケートにおいて、指導内容策定までの流れが理解でき、かつ授業に生かすことができた」と回答する職員が70%以上	・教職員に事前アンケートを行い、疑問点やニーズを把握したうえで、外部講師を招聘するなどし、自立活動に関する研修を行う。 ・授業や指導計画に関する自立活動相談会を定期的に行う。							自立活動

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--